

愛知県福祉サービス第三者評価事業 評価結果

①第三者評価機関名

一般社団法人 福祉サービス評価センター

②施設・事業所情報

名称： 恵の実「ステップくん」	種別：放課後等デイサービス	
代表者氏名： 柳澤 友美	定員（利用人数）： 20 名	
所在地： 愛知県豊川市市田町原山112番地		
TEL： 0533-65-9802		
ホームページ：		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成23年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 恵の実		
職員数	常勤職員： 4 名	非常勤職員 3 名
専門職員	（保育士） 2 名	（保育士） 3 名
	（児童発達支援管理責任者）1名	
	（児童指導員） 1 名	
施設・設備の概要	浴室・洗面所・便所	
	相談室・静養室・機能訓練室	

③理念・基本方針

<p>【法人の理念】 一人ひとりの意欲を大切に、たくましく、かしこく、優しく育つことを願いながら、発達に弱さを持つ子どもも含め、0歳児から学童、大人まで共に育ち合う共同の子育てを目指します。</p> <p>【基本方針】</p> <p>①子どもにとっても、保護者にとっても事業所が安心できる場所であり、信頼できる場所となるよう努める。</p> <p>②恵の実っ子クラブと連携した交流活動の中で、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にし、“人が大好き”という土台を豊かに育てていく。</p> <p>③仲間と共に様々な体験をしながら、主体性と人としての心の豊かさを育てる。</p> <p>④どんなに障がいが高くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。</p> <p>⑤職員と保護者が共に子どもの育ちを考えていけるよう、保護者の想いを共有し合う機会や保護者が学ぶ機会を設け家族支援を行う。</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・生活の基盤維持／「食べる」「寝る」生活リズムを保護者と一緒に整え、維持していく。おやつ作りや、学校の長期休みには昼食づくりを行う。テレビやゲームとの付き合い方を保護者と一緒に考えていく。
- ・日常生活の基本動作を身に着ける／身の回りのことを自分でやろうとする意欲を育てる。発達状況に応じて試行錯誤する力を発揮させ、自分のことが自分でできる喜びを感じていく。
- ・社会性を育てる／仲間との活動を通して、仲間への意識を育て、仲間と関わり合う中でコミュニケーションの取り方を学んでいく。自分の意見を主張し、仲間と問題解決していく力を育てる。恵の実っ子クラブとの交流活動を行う。また、その年齢にふさわしいマナーを学んでいけるようにする。
- ・身体を育てる／リズム遊び、散歩、集団遊びなど、身体を使ってたくさん遊ぶ。
- ・感覚統合／トランポリン、リズム遊び、アスレチック遊びなどの身体感覚を使った遊び。また、土や水、泥遊びなどの感覚を楽しみながら、試行錯誤する力を育てる。
- ・創造的活動／季節に合わせた制作に取り組んだり、ひとりひとりの自由な発想を表現する機会の保障。
- ・体験活動／川遊び、山登り、竹の子掘り、草滑りなど、四季折々の自然を感じる活動を行う。
- ・個別活動、少人数活動／その子の発達に応じて、個別活動や少人数活動、集団的活動を組み合わせて保育を行う。
- ・学校や病院との連携／学校や病院とも情報共有をしながら、子どもを多面的にとらえることができるようにする。
- ・家族支援／家庭での状況を共有しながら、保護者の悩みにも寄り添い、子育てを一緒に考えていける関係性を築く。定期的な個別面談や茶話会の実施。

評価実施期間	令和 5年 9月 15日（契約日）～ 令和 6年 3月 8日（評価決定日） 【令和 6年 1月 16日（訪問調査日）】
受審回数 （前回の受審時期）	1 回 （令和 元 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

- ・法人の同一敷地内のある「恵の実っ子クラブ」（学童クラブ）との交流の場が設けられ、そこでは障がいのある子ども、ない子どもが仲間として季節に応じた遊びや生活体験等、集団の中で子ども同士のかかわりができる環境作りに取り組んでいる。
- ・職員は茶話会や個別面談等を通じて保護者に家庭での様子を聴き、その思いに寄り添い親御さんと一緒に考え、子どもの成長につながるよう努めている。
- ・職員も子どもと過ごす時間を大切にしながら柔軟な計画の中で個別活動や集団活動を取入れ地域との関わりも支援し、家族の関わりも大切にしている。
- ・個々の職員が年間計画をたて、子ども支援に関する研修参加や職員間での勉強会に参加し、福祉サービスの質向上に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

- ・中・長期計画は中学生の増加、18歳以上の居場所づくり、駐車場整備等、策定されているが財務面の裏付けや数値目標、具体的成果等が設定されるよう期待したい。
- ・安心安全な子どもの生活支援として標準的なマニュアルは職員一人ひとりが理解し実践していく上で大切と思われる。事業所としての問題点を見出し、事業所独自の活用できる文書化のマニュアル作成は今後の課題と思われる。
- ・災害時の備蓄品は2日分、保護者が準備とのこと、このことで法人、保護者と検討して災害時の備蓄品、帰宅困難時の対応等詳細検討が望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

・第三者評価を受けることができ、私たちが日々行っている療育支援の質だけでなく、それを支える経営管理や体制整備、管理者としてのリーダーシップなど、多方面にわたって改めて客観的に振り返り、事業所として整備が十分でない所を見つけ出す機会になりました。また、ひとつひとつの項目を職員みんなで考え合っていくことは、とても大変な作業でしたが、事業所としての課題を職員みんなで共有し合ういい機会ともなりました。

・マニュアル整備等については、なかなか整備が行き届いてない所がありますが、マニュアルが形式的なものにならないよう、また実働に合わせた意味のあるマニュアルになっていくよう、法人全体で整備や見直しを進めていきたいと思えます。

・中・長期計画はステップくんを利用する子ども達の将来に繋がる居場所作りになります。計画が現実に繋がっていくよう、今回課題としてあがっていた人材確保や人材育成等も含め、さらに具体化していくよう検討し合っていきたいと思えます。

・非常災害対策については、1月に大きな災害もあり、危機感を持って対策を検討し合っているところです。備蓄品を含め、法人全体での災害対策を見直していきます。

・今回の評価を真摯に受け止め改善を図っていくと共に、今後も客観的に自己点検をしながら、よりニーズに即したサービスが提供できるよう、職員間で検討を重ね取り組んでいきます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。